

報告

漢方薬に対する薬学部5年生の意識 (活動報告)

毎熊隆誉¹⁾*, 緋田哲治²⁾, 手嶋大輔¹⁾

¹⁾ 就実大学薬学部, ²⁾ 有限会社ふたば薬局

Attitude to the Kampo medicine of fifth-grade pharmacy students (activity report)

Takayoshi Maiguma¹⁾*, Tetsuji Hida²⁾, Daisuke Teshima¹⁾

¹⁾ *School of Pharmacy, Shujitsu University,*

²⁾ *Futaba of Pharmacy*

(Received 13 December 2013; accepted 20 January 2014)

Abstract

To find the educational concept for the Kampo medicine in 6-year pharmacy education system, we carried out the multiple choice questionnaire survey about the attitude to the Kampo medicine to 5th-grade pharmacy students (n=168, 2011—2013). Also, we assessed the influence of the lecture of pharmacy specialist in the Kampo medicine to the students' attitude. As the results, there were many students who recognized the Kampo medicine as little favorite field (58.3%). But then, many students had interest (94.0%) to the Kampo medicine. Surprisingly, even after attendance, there were students who felt a deep need to give a lecture about the Kampo medicine at the university (44.6%).

It was suggested that the lecture and experience contained the tasting of Chinese medicine would be useful for increase of motivation for learning the Kampo medicine.

Key words: the Kampo medicine, 6-year pharmacy education system, attitudes, questionnaire

緒言

漢方薬を診療所勤務医の91.8%が処方しており¹⁾, 日常診療において漢方薬は必要不可欠となっている。就実大学薬学部では, 臨床教育の充実を図るため, 日常的に漢方薬に携わる開局薬剤師によるアドバンスト科目を開講した(講義名「漢方薬学」)。現在, 本講義に対する意識調査は単一年度しか実施しておらず²⁾, 今回, 本講義のカリキュラムや実施方法の方向性を見出すために, 複数年度に渡った学生の意識調査と漢方専門薬局の薬剤師による講義の影響について検討した。

方法

岡山市内で漢方薬を専門に扱っている薬剤師1名が, 臨床実習直前の4月中旬から5月上旬に, 各90分, 7コマの「漢方薬学」(選択科目)を担当した(表1)。講義前後に記名式の質問紙を用いて2011—2013年の3年間に渡って調査した。本調査は講義改善の目的で行い, 学会等で公表する可能性を説明し, その趣旨に賛同した者のみが記名した。尚, 得られた回答は就実大学個人情報保護規定のもとに実施し, 保護されている。有効

回答は記名が有り全項目に回答したものとした。アンケートとして、漢方薬に対するイメージ、苦手意識、信頼性、および漢方薬に対する基礎的な知識などを問うものとした(表2,3)。講義前後で回答内容の比較を行った。回答項目が名義尺度の場合には McNemar 検定および

McNemar-Bowker 検定を行い、順序尺度の場合には Wilcoxon の符号付き順位和検定を行った。有意確率が 0.05 未満を統計学的な有意差ありとし、統計処理には IBM SPSS Statistics 19 (IBM, New York) を使用した。

結果

受講前、覚えることが多い、漢方薬の味や難解な漢字が苦手と苦手意識を持つ学生が 58.3% いた反面、漢方薬への興味・関心 (94.0%) はあるとし、それを必要とする学生が多かった (大学の講義: 98.8%, 医療における漢方: 94.6%)。また、漢方薬へのイメージでは「飲みづらい」が最多で、日常の食事に気を付けている学生はあまりいなかった (講義前, 表 3A)。

本講義の受講理由として「漢方薬の基礎が知りたい」が最も多かった。受講後、漢方薬への興味・関心、信頼性、およびその必要性は有意に増加した。漢方薬が「古い」というイメージは払拭され、「経験的」、「安全」および「高価」なイメージを持つ学生が増加し、苦手意識も有意に低下した。また、受講後でも、尚、大学での講義が非常に必要とする学生が 44.6% 存在していた (講義後, 表 3B)。講義前に漢方薬に関する基礎的知識を正誤問題で調査したところ、「医師の約 8 割が漢方薬を処方している」の正答率が最低であった。受講後には全項目の正答率は約 60% 以上となった (図 1)。

考察

2013 年度の無記名が多く有効回答率が 53.3% と、結果に参加バイアスがかかっていると考えられるが、対象学生の 9 割以上は生薬学 II (応用生

薬学, 3 年次 15 コマ) および処方解析学 I (4 年次 2 コマ) を履修し、薬物療法としての漢方薬に関する教育を受けている。また 5 年次における本講義の受講率も 95% を超えていることから、本アンケート結果への過去の履修科目による影響は少ないと思われる。

受講前、漢方薬への興味・関心の高さは医学部 5 年生と同程度であり³⁾、また、大学での講義が必要とする割合は 9 割を超え、約 7 割の学生が

表 1 漢方薬を専門に扱う薬剤師の講義

就実大学薬学部シラバスに基づいた講義概要。1コマ90分。
講義内容としては、事前に医療現場をイメージして長期実務実習に臨むことができるように、(1)処方せんによる漢方医療、(2)処方せんではなく来局者の相談によって必要となる漢方医療、および(3)薬を用いない漢方の知恵に基づく食養生や生活指導など、薬剤師が漢方医療に関わる3つの側面を意識して計画された。
講義の各回には、生薬の現物に触れる機会を設けて、学生が実際に目で見て、触れて、匂って、味わう等できるだけ学生の印象に残りやすいような工夫をした。

第1回 生薬学を学問から知恵へ
「人參は食材、朝鮮人參はくすり…何故？」生薬(食物)の五味・寒熱(山芋、シソ、人參を例にして、食べ物と生薬・漢方の繋がりを知る)

第2回 漢方処方を組立てる・分解する
「よく使われる代表処方について知ろう」日本漢方と中医学(医師が使う常用処方ベスト10を知る。大建中湯、芍薬甘湯 etc.)

第3回 薬局で相談を受け、漢方薬を選んで治す
「自分や友人の体質を知ろう」漢方の生理・病理・診断、舌診の基礎(手鏡を使って自分の舌を診断する。舌診の演習)

第4回 医療用漢方製剤を上手に使う
「上手な飲ませ方」小児・妊婦の漢方、漢方の禁忌・副作用(葛根湯などエキス剤は水で飲む?、メーカーによって異なる配合量)

第5回 風邪・インフルエンザの漢方
「自分や家族の風邪を治そう」セルフメディケーションの実践(インフルエンザに麻黄湯? 汗が出るかなど服用前のチェック)

第6回 民間薬・家伝薬等聞いて役立つ漢方雑学
「柿のへた、ごぼうの種…何に使う?」健康食品とサプリメント(しゃつくりがひどい時、母乳の出をよくしたい時…どうしますか?)

第7回 漢方EBMを考える
大建中湯、抑肝散、六君子湯等のエビデンス

表 2 講義前後に行った基礎知識テスト

質問項目としては、医療制度、漢方による薬物療法、有効性(副作用を含む)および流通に関わるものなど漢方医学に関して、基礎的な知識を幅広く問うものとした。

以下の質問文の正誤を答えなさい

問1. 医師の約8割が漢方を処方している
問2. 漢方の煎じ薬は、医師の処方せんでのみ調剤できる
問3. 漢方製剤には後発品はない
問4. 漢方薬は通常食間または食前に服用をする
問5. 妊婦や小児に漢方薬は使えない
問6. 漢方薬も必ず水で服用しなければならない
問7. 葛根湯は肩こりにも効く
問8. 一服飲むだけで、効果が出る漢方薬もある
問9. 漢方薬には副作用はない
問10. 医師の指示なく漢方薬を販売して、病気を治してはいけない
問11. 民間薬は個人の経験で服用しても構わない
問12. 生薬は産地によって、品質や仕入れ価格が異なる

問13) 以下の内、漢方薬はどれか(複数選択可)

1. 葛根湯
2. ナイトール
3. 養命酒
4. ケツメイシ
5. ウコン

表3 講義前後におけるアンケート結果と比較

講義前アンケート(A)および講義後アンケート(B)の内容と有効回答者168名の回答を示した。また、講義前後において、同一の質問項目のみについて回答数の比較を行った(C)。回答項目が名義尺度の場合にはMcNemar検定(択一式回答:設問1,6)およびMcNemar-Bowker検定(複数回答:設問2)を行い、また、回答項目が順序尺度の場合にはWilcoxonの符号付き順位検定(設問4,5,7,8,9,10)を行った。

A. 講義前					B. 講義後					C. 講義前後の比較
	全体	2011年度	2012年度	2013年度		2011年度	2012年度	2013年度		
受講者数 (選択・受講率)	248 (96.9)	97 (97.0)	76 (95.0)	75 (98.7)	受講者数 (選択・受講率)	248 (96.9)	97 (97.0)	76 (95.0)	75 (98.7)	p値
有効回答数 (回答率)	168 (67.7)	69 (71.1)	59 (77.6)	40 (53.3)	有効回答数 (回答率)	168 (67.7)	69 (71.1)	59 (77.6)	40 (53.3)	
1. 漢方薬を使用したことがありますか?					1. 漢方薬を使用したことがありますか?					0.791
ある	131	51	47	33	ある	133	54	46	33	0.224
ない	37	18	12	7	ない	35	15	13	7	
2. 現時点での希望進路について教えてください					2. 現時点での希望進路について教えてください					—
病院	71	25	30	16	病院	69	26	26	17	
調剤中心の薬局	56	27	13	16	調剤中心の薬局	62	29	17	16	
調剤・OTC併設薬局	10	3	5	2	調剤・OTC併設薬局	13	5	6	2	
その他	31	14	11	6	その他	24	9	10	5	
3. 本講義を受講した理由を教えてください (複数選択可)					3. 本講義を受講した感想を教えてください (複数選択可)					< 0.001
漢方の基礎が知りたい	96	39	38	19	漢方の基礎が学べた	131	54	48	29	
高度な専門知識を身につけたい	10	4	5	1	高度な専門知識が身についた	16	6	8	2	
実務実習に役立ちそう	23	9	6	8	実務実習に役立つ	41	14	17	10	
面白そう	90	40	25	25	面白かった	114	51	33	30	
4. 漢方に対する苦手意識は?					4. 漢方に対する苦手意識は?					< 0.001
全くない	8	2	4	2	全くない	14	8	6	0	
あまりない	62	31	20	11	あまりない	62	27	20	15	
ある	73	26	27	20	ある	85	31	31	23	
非常にある	25	10	8	7	非常にある	7	3	2	2	
5. 漢方に対する興味・関心は?					5. 漢方に対する興味・関心は?					< 0.001
全くない	0	0	0	0	全くない	0	0	0	0	
あまりない	10	2	3	5	あまりない	9	2	4	3	
ある	120	50	42	28	ある	96	41	28	27	
非常にある	38	17	14	7	非常にある	63	26	27	10	
6. 漢方薬・東洋医学に対するイメージは? (複数選択可)					6. 漢方薬・東洋医学に対するイメージは? (複数選択可)					0.019 1.000 < 0.001 0.003 0.652 0.035 0.322
古い	58	19	24	15	古い	41	13	13	15	
難解	26	11	10	5	難解	25	10	8	7	
経験的	57	30	17	10	経験的	98	49	30	19	
安全	37	16	13	8	安全	56	22	23	11	
緩和	47	22	16	9	緩和	51	20	19	12	
高価	14	5	6	3	高価	25	13	7	5	
飲みづらい	60	17	26	17	飲みづらい	52	17	22	13	
7. 漢方の信頼性はどの程度だと思いますか?					7. 漢方の信頼性はどの程度だと思いますか?					< 0.001
全くない	0	0	0	0	全くない	0	0	0	0	
あまりない	33	12	16	5	あまりない	6	0	2	4	
ある	124	52	40	32	ある	127	54	45	28	
非常にある	11	5	3	3	非常にある	35	15	12	8	
8. 日常の食事に気をつけていますか?					8. 日常の食事に気をつけていますか?					0.602
全く気をつけていない	7	3	2	2	全く気をつけていない	14	7	5	2	
あまり気をつけていない	91	40	29	22	あまり気をつけていない	79	32	28	19	
気をつけている	63	25	23	15	気をつけている	69	28	23	18	
非常に気をつけている	7	1	5	1	非常に気をつけている	6	2	3	1	
9. 大学において漢方の講義は必要だと思いますか?					9. 大学において漢方の講義は必要だと思いますか?					< 0.001
不必要	0	0	0	0	不必要	0	0	0	0	
あまり必要でない	2	0	1	1	あまり必要でない	2	1	0	1	
必要	130	53	47	30	必要	91	37	29	25	
非常に必要	36	16	11	9	非常に必要	75	31	30	14	
10. 医療において漢方は必要だと思いますか?					10. 医療において漢方は必要だと思いますか?					< 0.001
不必要	0	0	0	0	不必要	0	0	0	0	
あまり必要でない	9	2	6	1	あまり必要でない	2	0	1	1	
必要	115	51	35	29	必要	68	30	17	21	
非常に必要	44	16	18	10	非常に必要	98	39	41	18	
11. 本講義に対する期待度は?					11. 本講義に対する満足度は?					—
期待していない	0	0	0	0	満足していない	0	0	0	0	
あまり期待していない	3	0	0	3	あまり満足していない	1	0	0	1	
期待している	109	41	37	31	満足している	70	35	14	21	
非常に期待している	56	28	22	6	非常に満足している	97	34	45	18	

必要性を感じていた薬学4年制の結果を上回るものだった⁴⁾。従って、医学生と同様、6年制課程における漢方薬に対する薬学生のニーズは高いと考えられる。しかし、受講者の多くは生薬学Ⅱおよび処方解析学Ⅰで薬物療法としての漢方薬に関する教育を受けているにも拘らず、受講理由に漢方薬の基礎を知りたいと挙げていた。その理由として、3、4年次の講義では漢方薬の配合生薬の成分や虚・実、寒・熱等の意味、および補血剤のような分類等に関する内容が中心のため、学生が知りたいと思っている小児や妊婦、不定愁訴を抱える患者への具体的な使用方法についてのニーズを満たしていなかった可能性が示唆された。本講義では、手鏡を用いての自身の舌診体験や西洋薬の治療では限界のある患者症例を用いて、「気血水」などの概念により“証”を決定する過程を体験した。また、陰陽のバランスが崩れた“陰虚”の状態を「エンジンの冷却水が減ってオーバーヒートになった状態」などの平易な表現で解説され、「冷却水が減った状態なので、水場に生える苔は無い」など写真を用いて舌診のやり方と繋げて講義された。休憩時間には、漢方薬の原料生薬を見て、触れて、嗅いで、刻んだ生薬を味わう機会を設けて、痛みに近い半夏の強烈な味を緩和する生姜の必要性を多くの学生が体感した。3、4年次の講義を踏まえて、実際の体験や患者症例を本講義で学習したことで、受講後、学生の興味・関心が増加し、高い満足度が得られたと考えられる。また、回答項目間の相関を検討した結果、苦手意識と興味・関心の間に負の相関が認められた ($r = -0.426, p < 0.001, \text{data not shown}$)。したがって、興味・関心の増加が苦手意識の低下に繋がった可能性もある。今回実施した基礎知識テストの質問項目の中には、葛根湯を西洋医学的に使用するものと誤解を招くような設問があるが、これは漢方薬の適応の広さに着目させる意味で組み込んだ。また、ナイトールや養命酒などの実務実習でよく聞く商品名を例示し、漢方薬＝

漢字表記という概念を払拭し、真の漢方薬の定義を問うものとした。結果、同一項目で調査した3年間において、講義後の知識テストの正答率は向上しており、現場薬剤師の講義の内容がある程度、学生に定着しつつあることを示していると思われる。

通信販売やインターネットを通じて漢方薬を誰でも購入できる現在、安全とのイメージの強い漢方薬の安易な使用に伴う副作用を防止し、証を見極めた漢方薬の適切な使用のできる薬剤師を輩出することが求められる。しかし、今回は、学生は漢方薬の基礎を学習したのみであり、食事を気遣うには至っていない。今後、講義数の増加や患者症例の検討を含めた演習を増やすなど、更なる「漢方薬学」の充実が必要と思われる。

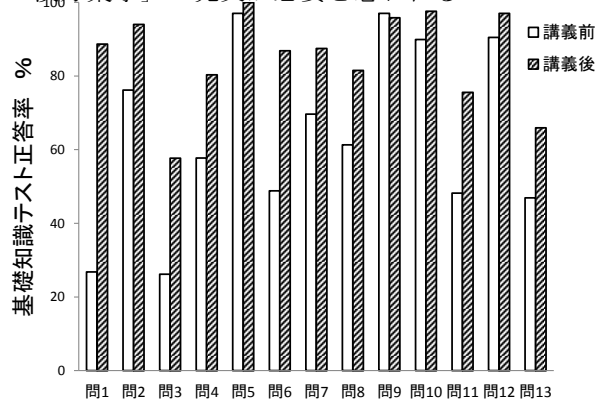


図1 講義前後の基礎知識テスト結果
有効回答者168名の基礎知識テストの各問ごとの得点率を示す。

引用文献

- 1) 日経メディカル開発「漢方薬使用実態及び漢方医学教育に関する意識調査 2012」, 平成24年, <<http://nmp.nikkeibp.co.jp/kampo/2012.html>>
- 2) 毎熊隆誉, 緋田哲治ほか: 薬学部5年生の意識を変える現場薬剤師の講義—漢方医学への動機づけ—, 日本薬剤師会雑誌, 65, 23-26 (2012).
- 3) 小暮敏明, 伊藤克彦ほか: 総合診療と漢方医学に関する医学生の認識—群馬大学医学部医学科5年生を対象として—, Kampo Med, 54, 1103-1108 (2003).
- 4) 金成俊, 松本司ほか: 薬学生による漢方医学教育の評価, J Trad Med, 21, 241-249 (2004).